THE JAPANESE SOCIETY FOR QUALITY CONTROL　2004.11／NOVEMBER
No.256
JSQCニュース

発行 社団法人 日本品質管理学会
東京都杉並区高円寺南1-2-1　㈶日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話.03 (5378) 1506　FAX.03 (5378) 1507
ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

1-トピックス　ソフトウェア部会
2-私の提言　世の中に役立つ品質管理学会
2-ルポルタージュ　第12回ヤング・サマー・セミナー
3-高橋 朗氏デミング賞本賞を受賞／デミング賞ほか／9月入会者紹介
4-10月入会者紹介／各賞表彰／第34年度役員体制役割分担／お見舞い

ソフトウェア部会 ―プロフェッショナルのための新しいコミュニティ―

日本品質管理学会　理事　兼子　毅

先日の総会で、「部会」という組織を学会で持つことが承認されました。そもそも「部会」とはどのようなものなのでしょうか。

日本品質管理学会そのものが、製品やサービスの質に関わるプロフェッショナルのコミュニティであり、プロフェッショナル同士の交流、切磋琢磨の場を作るとともに、研究の奨励、成果の啓蒙・普及、それらの標準化活動などを行う団体です。今まで、様々な分野の人たちが集まり、お互いの経験や知識を持ち寄り、コアとなる概念や手法の共有化を進めてきました。それら基本となる考え方や手法などの重要性はまったく色あせてはいませんし、その重要性はますます大きなものになっていますが、世の中の高度化とともに、別の問題が浮かび上がってきたのではないでしょうか。それは分野の特殊性です。

例えば自動車なら、高速走行時の空力特性を評価するために粘土細工の模型を作り風洞実験を行う、あるいは、コンピュータ・シミュレーションを行う、などの技術を持っています。一方ソフトウェアの分野では、高負荷時性能を評価するための的確な「模型」を作る技術は確立していません。このような分野ごとの特殊性は、質を確保する方法や考え方の特殊性や独自性に繋がっていきます。別の言葉で言換えますと、製品やサービスの質を確保し高める手法や技術が、その製品・サービスの分野に大きく依存するようになってきたと言えるのではないでしょうか。

今回承認された「部会」は、そのような独自性・特殊性を抱える分野ごとに、より深く質に関する議論を行い、分野の独自性・特殊性に応じた研究開発を進め、より専門性を高めていくことが設置の目標である、と私は考えています。また、それら特殊性・独自性を抱えた分野の質のプロフェッショナルたちが、専門家としての自覚を高め、その責任と重要性を理解し、自らを高めていくための積極的な活動に参画するチャンスである、とも思っています。

この「部会」第一弾として、「ソフトウェア部会」の設置に向け、準備を始めています。私たちが手にする製品の多くには、目に見えない形でソフトウェアが入り込んでいます。高度化した製品のほとんどは、機能や性能の競争優位の中核に近いところにソフトウェアが潜んでいます。コンピュータとネットワークが張り巡らされた中で、生活の利便性の多くの部分をソフトウェアが担っているのです。ソフトウェアの質の専門家は、今まで以上に責任重大で、より、その専門性を高めていかなければならないと強く感じています。従来からソフトウェア科学やソフトウェア工学などの分野で、様々な技術開発が行われ、普及活動も行われてきています。しかしながら、「質」を中核に据え、そのマネジメントを実現するために現場だけでなくトップマネジメントに至るまでの組織、プロジェクト全体を対象とする専門家集団は今の日本には見当たりません。今回設置に向け準備を進めている「ソフトウェア部会」は、トップマネジメントからプログラマにいたるまで、ソフトウェアの質にかかわりを持っているあらゆる専門家のためのコミュニティです。

ソフトウェア部会では、（当面は「品質誌」との合冊になると思うが）独自の論文誌の発行、独自の普及・啓蒙・交流のための行事、独自の研究活動、他団体や海外諸団体との積極的な交流、ソフトウェアの質に関わる人材の力量認定制度など、ソフトウェアの質に関わる人たちの専門性を高め、製品やサービスの質そのものを高めていくための様々な活動をしていきたいと考えています。是非、積極的にご参加ください。また、会員の身近で、ソフトウェアの質に関わる仕事をしているが日本品質管理学会の会員ではない人に、是非ソフトウェア部会への加入を勧めていただきたいと思います。

興味をもたれた方は、是非兼子（takeshik@kaneko-lab.org）までご一報いただけると幸いです。これからすべてが始まります。積極的な参画を期待しています。

●私の提言●

世の中に役立つ品質管理学会

財団法人　日本科学技術連盟　**上窪　均**

中谷宇吉郎は『科学の方法』(1958)で、“自然科学の本質と方法を分析し、今日の科学によって解ける問題と解けない問題を明らかにし、自然の深さと科学の限界を知ってこそ、新しい分野を拡大する”ことを主張した。この考えが真理の追求、学問の発展につながることは論を俟たない。企業であろうが、製品であろうが、なにごとも継続して世の中に存在し、社会の発展に寄与することなくして存在意義はないというのは言い過ぎであろうか。

当学会の役割は、真実を明らかにすること、混沌とした状況の中から真の姿を見いだしていくこと、そのために品質・クオリティという側面で、社会のニーズや新しい経営環境に合致する方法論を研究し、社会の発展に寄与することにあると思う。社会環境、経営環境に合わせて、組織は変わらなければ衰退する。そのために自ずとマネジメントの方法を変えなければ、組織は生きていけない。その組織が品質を中核とした経営を行うためのいろいろな方法を当学会が研究し、管理技法として社会に普及すること、そして、どのようなマネジメントの方法が効率的で効果的であるかというガイドラインを示すのが、その役目ではないだろうか。

もともと品質管理の分野は、工学的アプローチ、すなわち統計データを解析していくことにより事実を発見していく科学的方法として発展してきた。先人の卓見により広がってきたこの分野が、ますます進展することを願うのみである。

ただ、他の方法、社会科学的なアプローチも必要であり、定量的な分析だけでなく、定性的な方法として言語データの分析も行いながら、より事実を明らかにしていく方法論の発展を願いたい。再現性が確保されなければ、学問あるいは学術論文としての価値がないのであろうか。この考えには、首肯することはできない。

社会や組織は生き物であり、いっときとして同じ状態はない。工学系の専門家だけの研究枠を越えて、非工学系の専門家も取り込むことで、研究がより広くそして深くなり、結果的に、他分野の専門家・研修者が当学会に対する関心を高めることにつながるのではないかと感じている。世の中に役立つ学会としての、さらなる発展を期待したい。

第12回 YSS ルポ

JR東日本 総合研修センター

去る9月10日から11日にかけて、第12回ヤング・サマー・セミナーがJR東日本㈱様のご厚意により同社総合研修センター（白河）において開催された。今年は、企業から1名、学生32名、大学教員4名の計37名が参加し、講演と研究発表・討論が行われた。

初日は、講師の先生に「今日の医療における質、特に安全性についてその実情と方向性」をテーマにご講演を頂いた。まず「Risk Management におけるincident/accident 報告システムの位置付け」という演題で電気通信大学の田中健次先生に、次に現場の視点から「医療現場の安全問題」を自治医科大学の長谷川剛先生に、最後に「医療質保証・質改善のために何を研究するか」を東京大学の飯塚悦功先生にご講演頂いた。参加者は講演に熱心に聞き入り、理論と現実の双方向からものを考えていく重要性を再認識した。

講演後、JR東日本パーソネルサービスの関口部長に鉄道車両事故の生々しい現実と安全に対する姿勢についてのお話、鉄道関連教材・展示館の見学という大変貴重な体験をさせて頂いた。夜には懇親会が行われ、参加者の親睦を深めるとともに、研究内容に関する議論がなされ、大変充実した時間を過ごした。

翌日の学生による研究発表では、「患者状態に起因する事故防止の為の患者リスク評価に関する研究」を東京大学の高橋宏行君が、次に「医療機関におけるリスクマネジャーの役割に関する研究」を早稲田大学の徳久哲也君、「要因の重点化を利用した医療事故解析手法の提案」を電気通信大学の島倉大輔君、「組織事故防止用の模擬体験型実験の設計」を東京理科大学の山内太介君、星光貴君、折尾剛志君、最後に「タイムスタディデータに基づくケア実施状況に関する研究」を東京理科大学の斉藤田君が発表を行った。様々な切り口からの発表に対して、活発な議論が行われた。

本セミナーを通じて、21世紀を担う若者同士の交流を深めることができた。来年も是非参加したい。最後に、このセミナーをご用意して頂いた学会の皆様に感謝したい。

石坂　論之（東京理科大学）

髙橋　朗・本学会32年度会長
今年度デミング賞本賞を受賞

日本品質管理学会第32年度会長の髙橋　朗氏が、2004年のデミング賞・本賞を受賞されました。

髙橋　朗氏はトヨタ自動車株式会社取締役副社長を経て、株式会社デンソーの経営者としての要職にあって、「質創造」がTQMの本質と捉え、長年、その実践に率先垂範されています。特に、日本の“忘れられた10年”の経営環境の厳しい中で、日本の再生は「ものづくり」とのお考えから、「日本ものづくり・人づくり質革新機構」（JOQI）の理事長として、TQMの新しい方向を示されました。この思想は、これから飯塚悦功現会長のもとで、展開される「Q-JAPAN」構想にも生かされるものと思います。

同氏は当学会においても、若手の育成のほか、企業に対するアンケート調査を実施し、今後の品質保証活動のあり方を考える糧として学会活動に反映されるなど、大きな足跡を残されました。学会としても、髙橋　朗氏が栄えあるデミング賞・本賞を受賞されましたことは大変、名誉なことと思います。

受賞おめでとうございました。

デミング賞委員会（委員長　奥田　碩）において、2004年度の日本品質管理賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月9日経団連会館にて執り行われました。

1．日本品質管理賞
株式会社ジーシー

2．デミング賞本賞
髙橋　　朗　氏　　株式会社デンソー　相談役

3．デミング賞実施賞（企業名五十音順･アルファベット順）
CCCポリオレフィン株式会社（タイ）
インドガルフ・ファーティライザーズ株式会社（インド）
ルーカスTVS株式会社（インド）
サイアムミツイPTA株式会社（タイ）
SRF株式会社 合成工業製品事業部（インド）
タイセラミック株式会社（タイ）

4．日経品質管理文献賞（文献名五十音順）
(1)「入門タグチメソッド」　立林　和夫　著
(2)「ブレークスルー･マネジメント」　司馬　正次　著

2004年9月の入会者紹介

２００４年９月１５日の理事会において、下記の通り正会員１７名、準会員１５名、賛助会員2社の入会が承認されました。

（正会員17名）○佐藤　貴彦・永野　昭義（豊田合成）○山王　久男（愛三工業）○東根　達行（アズマ行動発達学研究所）○中川　翔詠（エイエスアール）○三保　裕之（アルバック）○滝沢　孝（ミツバ）○川島　義正（ナイキジャパン）○新行内　康慈（十文字学園女子大学）○渡辺　久男（日本信号）○牛久保　公平（サンデン）○宮村　幸雄（三洋電機）○鎌田　直幸（オルトコーポレーション）○川島　学（マイスターエンジニアリング）○波部　哲也（トーア紡マテリアル）○伊藤　章（日本規格協会）○土田　哲平（日本化薬）

（準会員15名）
○濱川　大志・折尾　剛志・齋藤　淳・星　光貴・山﨑　啓之（東京理科大学）○于　保栄（東京医科歯科大学）○飯島　朋子・村上　伸太郎（電気通信大学）○荒川　亮介・吉川　博邦・滑川　浩倫・徳久　哲也・小林　秀・手塚　康・滝沢　佳世（早稲田大学）

（賛助・公共会員2社3口）
○㈱ジャストシステム○㈱マイスターエンジニアリング

2004年10月の入会者紹介

２００４年１０月１２日の理事会において、下記の通り正会員１０名、準会員７名の入会が承認されました。

（正会員10名）○大塚　文男（オリエンタルモーター）○染谷　高士（コーセー）○山本　典弘（鈴木正次特許事務所）○福留　新一（鹿島建設）○入澤　裕介（テプコシステムズ）○榎　新二（新潟県庁）○桜井　正光（リコー）○森　潔（日本飛行機）○鱠谷　佳和（村田製作所）○室岡　尚人（日本科学技術連盟）

（準会員7名）

○黒坂　俊介・平林　裕樹（早稲田大学）○中澤　祐介・庵谷　賢一・鈴木　謙介・石先　真純・利根川　敬志（青山学院大学）

正 会 員：3009名
準 会 員：145名
賛助会員：173社200口
公共会員：22口

各賞表彰

第34回通常総会において、第33年度最優秀論文賞１件、研究奨励賞１件、品質技術賞１件、ならびに品質管理推進功労賞７氏の授賞および表彰が行われた。

最優秀論文賞

『マハラノビス・タグチ・システムにおける多重共線性対策について』

宮　川　雅　巳　氏　（東京工業大学）
永　田　　靖　氏　（早稲田大学）
「品質」Vol.33, No.4, pp.467-475(2003)

研究奨励賞

『製品属性と使用者・使用状況の関わりに基づく人的エラーの予測』

佐　井　高　志　氏　（中央大学　現：フューチャーシステムコンサルティング）
「品質」Vol.34，No.3，pp.285-295(2004)

品質技術賞

『CRTの実践的手順化による新商品開発の中核問題の探索』

入　倉　則　夫　氏　（㈱デンソー）
「品質」Vol.34，No.１, pp.97-106（2004）

2004年度　品質管理推進功労賞

品質管理推進功労賞授賞者７氏（五十音順）は次のとおりです。

上　田　信　男　氏　元 横河・ヒューレット・パッカード㈱
加　古　昭　一　氏　日本能力開発研究所　元 日本ペイント
上　月　宏　司　氏　㈱ケイ・シー・シー　元 ㈱小松製作所
関　　康　彦　氏　豊田合成㈱
中　野　　至　氏　マネジメントＴ＆Ｋ　元 ㈱小松製作所
村　川　賢　司　氏　前田建設工業㈱
山　田　佳　明　氏　小松ゼノア㈱

新潟県中越地震のお見舞い

この度の新潟県中越地震において犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けた学会員、その他関係者に対して心からお見舞い申し上げます。

水道、ガス、鉄道、道路、住宅などの復旧にはかなりの期間を要する模様で、その間不自由な生活を強いられることになるかと思いますが、この苦境を乗り越えて行かれることを願っております。

寒さに向かいますが、ご自愛のほどお祈り申し上げます。

2004年11月　㈳日本品質管理学会

第３４年度役員体制決まる

去る10月30日に開催された第34回通常総会において新役員が選出承認され、第34年度の役員体制は以下のとおり決まった。

◇　◇　◇

会　長	飯塚　悦功	東京大学　教授
副会長	桜井　正光	㈱リコー　代表取締役社長
〃	神田　範明	成城大学　教授
理　事	荒木　孝治	関西大学　教授
〃	安藤　之裕	㈶日本科学技術連盟　嘱託
〃	大野　正直	日本ガイシ㈱　取締役副本部長
〃	尾島　善一	東京理科大学　教授
〃	兼子　　毅	武蔵工業大学　講師
〃	上窪　　均	㈶日本科学技術連盟 室長
〃	國澤　英雄	朝日大学　教授
〃	久保田 洋志	広島工業大学　教授
〃	田中　健次	電気通信大学　教授
〃	竹下　正生	㈶日本規格協会
〃	永井　一志	玉川大学　講師
〃	中島　昭午	エスバイエル㈱　代表取締役CEO
〃	永原　賢造	㈱リコー　技師長
〃	松浦　　剛	豊田合成㈱　取締役社長
〃	棟近　雅彦	早稲田大学　教授
〃	山崎　正彦	元　㈱コニカ
〃	山田　　秀	筑波大学　助教授
学会理事	石井　　成	名古屋工業大学　助手
〃	岩田　修二	サントリーフーズ㈱　取締役
監　事	藤原　庸隆	日本電気㈱　統括マネジャー
〃	椿　　広計	筑波大学　教授
顧　問	狩野　紀昭	東京理科大学　教授

第３４年度役員役割分担表

論文誌編集	◎尾島　○鈴木(和)
学会誌編集	◎久保田　○長田
広　　報	◎山崎　○岩田
事　　業	◎神田
研究開発	◎田中
規　　定	◎竹下
会員サービス	◎岩田　○山崎
選挙管理	◎桜井
庶　　務	◎棟近　○永原
最優秀論文賞／研究奨励賞	◎神田　○尾島
品質技術賞	◎桜井　○久保田
品質管理推進功労賞	◎飯塚
国　　際	◎安藤　○兼子
標　　準	◎山田
長期計画	◎飯塚　○桜井
Ｗｅｂ特別	◎兼子
研究助成特別	◎國澤
ANQ支援特別	◎安藤　○飯塚
QC相談室特別	◎荒木
医療分野	◎飯田
中部支部	◎松浦　大野　國澤
関西支部	◎中島　荒木

◎委員長　　○副委員長